

## 研修報告書 No.21

研修先： 土佐市民病院

私は土佐市立土佐市民病院で、1 か月間にわたって地域医療研修を行いました。たくさんの先生方、病院のスタッフの方々に囲まれ、また設備にも恵まれているこの病院で、不自由のない充実した研修を送ることができました。

始めのうちは一般内科外来をメインに研修し、後半になるにつれて病棟も少しずつ受け持ちました。普段研修している大学病院の専門外来は基本的に研修医が担当していませんが、土佐市民病院に来て様々な患者さんを診ることができました。

外来では、入院や処置が必要になる患者さんもいましたが、研修が 2 月だったこともあり、多くは風邪症候群や感染性胃腸炎のような common disease の患者さんでした。それでもたくさんの患者さんを診ていく中で、見逃してはいけないサインや、検査の必要性などの判断力が徐々に身についてきたように感じました。

病棟では主治医として最高で 4 人の患者さんを受け持ち、患者さんやご家族も交えながら自分が治療方針の決定に携われることが新鮮で、とてもやりがいを感じました。

そして様々な体験を通して、私の研修病院と最も異なる点として感じたのは、患者さんの層や、病院に求めるものの違いです。私が普段研修している大学病院では、様々なクリニックや病院から治療困難で紹介受診する患者さんや、また初めから専門性の高い医療を受けたい、というような高い希望を持ってこられる患者さんばかりを目にします。それと比較して土佐市民病院で受け持った患者さんの中には、先生に一度診てもらえば安心、という患者さんも多かったように感じます。もちろんそれによって提供する医療の質に差をつけるわけではありませんが、そういった患者さんにはしっかりと声かけをし、安心を持ち帰っていただくように意識しました。

土佐市のみならず全国的に、非都市部の開業医・クリニックの数が減少している傾向にあると伺いました。そのため、今まではクリニックで相談できた軽微な症状でも、救急病院である土佐市民病院の外来に来るしかない現状にあります。医師の数も本来ならば十分ではなく、高知大学などからの派遣された医師の尽力のおかげもあって成り立っていることを実感しました。今後、医療施設の集約化がさらに進み、医療アクセスの悪い患者さんがさらに増加することが予想されます。私もこの春から大学病院に入局して都市部をメインに活動していく予定ですが、今後は地域医療に目を配り、自分にできることは何か考えながら過ごしていきたいと思っています。

高知県で 1 か月間暮らしたことで、高知県の様々な良いところも肌身で感じることができました。

一つ目は、高知県の人々の温かさです。患者さんや病院スタッフだけでなく、近くの飲食

店や商店で出会う方々も、皆さんがとても優しく、互いを気遣う心にあふれていると感じました。土佐弁もそう感じた理由の一つだと思います。やわらかい響きで、とても好きなことばでした。将来土佐弁を話す方に出会ったら、勝手ですが親近感を感じるようになるだろうと思いました。また、家族や近所の結びつきが強いことも印象的で、すぐ近くに頼れる家族がいることは、若者にも高齢者にも良い点がたくさんあると思いました。

二つ目は、高知県の豊かな自然です。広大な海、山、川に囲まれた素晴らしい県だと思います。海が近いため、日常的に新鮮なおいしい魚を食べられただけでなく、休日には港町で太平洋を眺めて時間を忘れることもありました。

そして、自然の中では仁淀川が最も印象的でした。土佐市民病院は比較的下流の域に位置していますが、そこでも川底が見えるくらいのきれいな水質でした。また観光時には、中流ではカヤック体験をしたり、上流ではこ淵をはじめとした神秘的な光景をたくさん見たりすることができました。一生忘れられない、素晴らしい景色ばかりでした。

1か月間、慣れない環境での研修ではありましたが、病院スタッフをはじめとした全ての方々のおかげで、今までにない充実した研修生活を送ることができました。心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。